

学位論文（要約）

論文題目： 超高齢社会に対応した園芸活動ならびにその色彩評価法の開発

氏名： 神山 智也

本格的な高齢社会において、高齢者自身が日々の生きがいを持って、自立した生活を営み、積極的に社会に参加することが高齢者の健康の増進や病気の予防につながる。園芸は高齢者の心身の健康の維持および増進、生きがいづくり、社会とのつながりの強化、認知症の予防などに効果があると考えられている。本研究では園芸活動による心理状態の改善効果の検証とその評価方法の開発、およびより多くの高齢者が楽しむことができる新しい園芸活動の開発を行なった。園芸活動の効果の評価については、POMS, MCL-S. 1 および ABS といった心理調査法や脳波、心拍変動、血液成分などの生理測定法がこれまでに試みられているが、いずれも調査対象者に対し、かなりの負担を与え問題がある。そこで対象者への負担の少ない園芸活動の評価方法として「色彩評価法」を開発し、高齢者および学生について調査した。またその時に、POMS, ABS も行い、園芸活動による心理状態の変化を調査し「色彩評価法」の有効性を検証した。

色彩評価法は対象者が色見本の中から選んだ色によって心理状態を把握する評価法である。調査の結果、色彩評価法で対象者の心理状態を把握出来ることが明らかとなり、改良を加えた。例えば、提示する色見本に用いる色数は当初は 22 色であったが、マンセル表色系の 10 色が適当であり、高齢者を対象とする場合はカラーユニバーサルデザインを取り入れた配色の色見本を用いることで、より適切に心理状態が反映された。色彩評価法の色見本には印刷のみならず様々な物が利用可能であると考えられ、色彩評価法がより楽しく行なえる工夫も行った。また、1 色だけではなく、2 色を選んでもらい分析することにより対象者の心理状態をより詳細に把握することができた。好きな色が色彩評価法の結果に影響を与えることが懸念されたが、調査時に十分な説明を行なうことで好きな色が影響することは避けられると考えられた。色彩評価法は他の調査法と比較して負担や所要時間が明らかに少なかった。これらの結果から、色彩評価法は対象者の心理状態を十分に捉えることができ、高齢者自身や施設職員にとっても負担が小さいことから、特に高齢者を対象とした園芸活動の評価法として非常に有用であるといえる。

高齢者施設において屋内でも植物の栽培が楽しめる簡易養液栽培を開発した。高齢者施設用簡易養液栽培で十分な植物の生育が認められた。高齢者施設における園芸活動として簡易水耕栽培を導入したところ、楽しくかつ簡単で、価格も安く園芸活動として積極的に利用したいと評価された。また、簡易水耕栽培を用いた園芸活動は屋外で園芸活動を行なうのと同等の心理状態の改善効果が認められた。これらの結果から、簡易水耕栽培は屋外に出ることが困難な高齢者への園芸活動として非常に有用であると考えられた。